

Ring-Ring

【NPO BEEN通信】改題

特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク

2018
夏季号
No25

第16期 通常総会 記念講演

平成30年6月4日

自転車活用推進計画(案)について



講師 山田 拓徳氏

国土交通省道路局

自転車活用推進本部事務局員

「自転車活用推進法」は平成28年に成立、同年公布、平成29年5月施行された法案であり、やっと動き始めたという所である。用意してきた資料「自転車活用推進計画(案)について」は基本の基本なので本日はこれを基にお話を進めたい。初めに短い講演ですべてを語ることは不可能であることをご理解いただきたい。この法案の特質はこれまでと違い、議連の提案で、国が自転車政策全体を立案。国と自治体が役割分担するという初めて整備された法律であるということである。従ってこれまで省庁単位、自治体単位で対応してきたものを「推進本部」を設置して自転車の活用を総合的・計画的に推進するものである。従って皆様にも施策へのご理解、ご協力を頂き自転車活用推進を図っていききたい。具体的には本日配布の資料(後日掲載)を参照して頂きたい。

講演会開催に当たって 副理事長 渡辺昭男

第16期通常総会記念講演に講師として国交省の山田拓徳先生をお迎えし、ご講演をいただきます。山田先生は自転車活用計画推進本部の要として、法案の立案に深く関わり、各地での講演、パネリストとして出演され、計画の活用、推進にご尽力されておられます。

特別寄稿

3年を振り返って

顧問弁護士 杉本 秀夫



4年前、理事長の森山功氏と渡辺事務局長のご依頼でNPO法人ビーンズの顧問弁護士に就任させていただきました。森山氏から大凡のお話は伺いましたが、ひたすら利益追求を目的とする会社と異なっており、NPO法人の形を取りながら、オランダ、デンマーク等に続く自転車大国を目指すという大きな希望を持った団体でした。

当然のことですが、法人のスタートは通常総会です。総会は数がすべてです。そもそも数が足りなければ、理事長以下の執行部選任等の新年度スタートもできません。それに加えて、前執行部時代のさまざまな確執、生々しい利害関係の争いが伏在していました。まず、このマイナーな点の克服が求められました。

(3面に続く)

先達の労苦を偲び発展の礎を築こう 理事長 森山 功

大きな前進の1年

昨年「大きな目標に向かって、小さな第1歩を踏み出す」と決意を申し上げました。この1年を振り返りますと、その1歩は歩幅を大きく伸ばすことができた1年であったと確信いたしております。

特に今回は山田先生に記念のご講演を頂くことができました。総会で報告された事業報告、決算報告の詳細は東京都の公報に掲載されますのでご覧いただければと思います。今期の特筆すべきものだけを述べますと、長年の懸案でありました駐輪場のリニューアル、不良債権の処理に成果を挙げました。事務局体制は渡辺事務局長を中心に「改革なくして生き残れない」をモットーにここ数年、改善改革に取り組んできたことが実を

結んで明るい未来が見通せるようになりました。現在のNPOビーンの体制は、事務局5名、現場作業業務を担う43名。それに我が法人を支えて下さる会員40名。合計88名の陣容となりました。

自転車環境の整備

この陣容で、次のような運動を展開して参ります。5K（環境、健康、交通、観光、活性化）+1S（災害）運動の推進を図る。会報「BEEN通信」も「Ring-Ring」（読み方はリンリン）と題字を改題し、自転車活用法の啓蒙に努めたいと思います。幸いにも毎日新聞社でご活躍された倉嶋康氏を理事に迎え編集委員を務めて頂くことになりました。充実した紙面をお届けできることと思います。

また、当法人の骨格である駐輪事業では“守り”から“攻め”にリニューアル、新規事業への取り組み等を山崎企画部長中心に打って出る1年でありたいと考えております。管理面では、平尾管理部長を中心に着々と現場作業体制を整え、どこよりも優れた人材を揃えることが出来たと自負できるところまでできました。

結びにアマノ株式会社様、東海技研株式会社様、日本政策金融公庫様、かながわ信用金庫様、三菱UFJ銀行様、三菱リース様、東京センチュリー株式会社様、神鋼リース株式会社様、杉本秀夫法律事務所様、小田原税理士事務所様、玉村社会労務士事務所様はじめ多くの方々のご支援を賜り今日を迎えることができました。



審議を尽くし、更に今後の発展に向けて活発な意見の交換がなされた

通常総会の概要

6月4日（月）午前10時 東京都港区芝公園の芝パークビルコンベンションホールにて、出席者数38名欠席2名（会員総数40名）で開催した。

議長には渡辺昭男氏が選任され、会員の半数を超える出席を得て総会の成立が宣せられ、審議に入った。議事録署名人には大久保武理事、山崎企画部長が選ばれた。その議事録に基づき総会の概要を報告する。

①事業報告では関係各区の放置自転車対策への協力イベントの実績、駐輪場のリニューアルについて経緯が報告され、決算報告では念願であった不良債権3797万円の処理、私募債1282万円の返還について説明した。小田原眞人顧問税理士から「私募債の返済により金融機関からの借り入れのみとなったこと。

不良債権処理により、正味財産金額は-1282万円となった。しかしこれにより財政内容が明確になり、今後の収支状況を推測すると2～3年で赤字解消の見通しが出来たので理事会の承認を得て断を下したものである。」と補足説明がなされ可決された。

②事業計画、予算案については、引き続き杉並区、港区と連携を密にして放置自転車対策、イベントに積極的に参加し近隣との友好を深め、安全、安心の街づくりに取り組んでいく。また老朽化している白金高輪のバイクインの機器、世田谷用賀の第3、4駐輪場の整備に取り組むことが説明され、予算については同じく小田原眞人税理士から説明された。賛成多数で可決し順調に閉会となった。時間の許す範囲で出席者の皆様からのご意見、今後のNPO自転車環境創造ネットワークへの期待の言葉を頂くことができた。（企画部長・山崎幹夫）

（1面より続く 特別寄稿「3年を振り返って」）

平成28年の第14期総会は、横浜で開かれました。執行部一同、前日から泊まりがけで準備に力を尽くしました。この総会は、会員個人の利益と、法人ビーンの利益が対立したものとして主張され、法人ビーンとしては、会員個人の利益を優先させるべきだなどという意見も披露されましたが、最終的には執行部案が可決され、その先への結束が期待され平穏に終わりました。

それから後は、いろいろな課題を克服しながら、本年度、第16期総会は、原点に返って東京都港区芝で開催することができました。国交省から講師をお招きして、自転車立国の将来をお伺いするなど、本来のNPO法人らしい、次への前進に繋がる総会となったように思われます。

言い古されていることですが、自転車は排気ガスゼロ、体力の増進につながります。その2つだけでも大きな長所です。私達は微力ながら、この大きな目標に向かって進んでいきたいと思っています。

杉本秀夫法律事務所 東京都港区赤坂2丁目2-21

永田町法曹ビル703 電話03(3586)3939

未来に夢を

金子 和夫

改めて非営利活動の役割の大切さを実感しました。「脱原発でいいのか？」をテーマに取り組んでいますが、福島原発事故から、今や悪者扱いになっている原子力発電、果たしてこのままでいいのか？一度技術を放棄したらもう世界のレベルには追いつけない。今



原子力研究者が減少してきている。それは未来に希望が持たなくなっているからである。かつて自転車王国とまで言われた日本の自転車産業の技術が

出席者の声

海外に流失し今では部品の調達に難しく、100%の国産車は作れなくなっていると聞く。同じ現象が原子力産業にも起ころうとしている。厄介者になっているブルトニウムの研究に「推進法」と同じく国策として取り組むべき時ではないのか。無資源国日本は国民も真剣に考えなければならないと痛感した。

BICYCLE CITY EXP02018

自転車まちづくり博

小林 清輝



5月29日、30日の両日で行われた、駐輪場メーカー展示会バイシクルシティですが、今年は、例年になく、駐輪機器の

ブースより、世間の関心が高い「シェアサイクル」に力を入れた展示内容となっていました。“みんちゅう”と呼ばれる駐輪場シェアサービスや、アジア総合研究所、オーシャンブルースマートのPIPPAやOFOジャパン、ドコモバイクシェア、陽報、ペダルなど以前はドコモバイクシェアが独占状態だった市場が、各社参入

して来た関係で競合状態になっている印象です。

今回見た中で、特に印象的だったのは、シェアサイクルの中でも、特にここは競合他社と違うと差別化を図っている企業は少なかったように感じました。オリンピックに向けてシェアサイクル市場が過熱している一方、今後の課題も多いと思います。特に大事になってくる、シェアサイクルの展開をして、利益が見込め採算の合う運営が出来るかどうかである。これについてメーカーに聞いてみた所、総じて返ってくる回答は、これだ



して来た関係で競合状態になっている印象です。

けでは利益を確保する事が出来ないという回答でした。

過熱気味のシェアサイクル

つまり、過熱しているシェアサイクルの市場を、どのように利益が取れる運営方法をしていくのかを本気になって考えて行かなくては、オリンピックが終わった段階でこの勢いも頓挫するのではと思われま。

どこか一社のシェアサイクルをわが社の駐輪場に試験導入し、モデルケースとして、“シェアサイクルがある駐輪場”としてお客様へ認知してもらう事も大切だと考えます。集めたデータの分析をしてその情報を、どのように生かしていくのかをきちんと考える必要があります。（管理部）

自転車でアメリカ西部を走る ⑩

出水 豊

私に与えられた任務は1998年長野冬季オリンピックから次回開催地の米国ソルトレーク市へ「環境親書」を届けることだったが、それには『しぼり』があった。親書の内容が「地球環境の保護」だから石油などの化石燃料を一切使わないこと。そこで自転車と帆船を使った。他にも二つのミッションがあった。まず日米の通過する県(州)市町村の自治体トップに会って趣旨を説明し、環境を大切にす施策を実施するとの署名をもらう。もう一つは通過地でのイベントに参加したり学校訪問をして、そこで環境啓発活動に努めるということだった。

資格は「特命環境大使」だからアメリカでは「スペシャル・アンバサダー」と紹介されるたびにいささか誇らしかった。でも私をサポートするNASL国際環境使節団のメンバーはふざけて「環境チンドン屋」とからかった。

チンドン屋としてうれしかったのは日米の新聞やテレビが私の行動を大きく取り上げてくれたことだ。そして私に伴走した息子の望が新聞記者だったので、現地から東京へネットメールで連日送稿した。2000年夏、それは社会面を飾り、文化放送でも流されて読者、聴取者を喜ばせたが、現場では悪戦苦闘の連続だった。その中から幾つかを紹介する。

◇気温35度以上の暑さが続くネバダ砂漠。自転車で走る倉嶋団長をエスコートするプリウスを運転していた私は一計を案じた。サンフランシスコで調達した一升瓶をウインドウサイドに置いたのだ。日が落ちると砂漠は急速に冷える。熱燗になった日本酒をふるまわれた団長である父は涙を浮かべて喜んだ。

◇砂漠の真ん中をどこまでも伸びる50号線を自転車は大型トレーラーやダンプと並んで走る。往復2車線道路の端に幅50cmの路側帯がある。自転車はこの「丸木橋」を走る。暑さと疲れでフラフラになりながらここを走るの、まさに綱渡りそのものだった。



現地の新聞に掲載された記事

◇日が傾くと風が次第に強まった。サイプレス(モンテレー松)がしんない始めた。カーソンシティの方角から煙のような巨大な黄色い塊が周囲の風景を飲み込みながら大変なスピードでこちらへ向かってくる。砂嵐だ!! たまらず団長とプリウスに逃げ込む。一瞬後、窓の外は闇となり、車は激しく揺れる。30分後、サンドストームは去り、空には赤い虹がかかった。巻き上げられた砂粒の虹だ。自転車は100m先に飛ばされていた。

◇イリバのキャンプサイトにあったキャンピングカーの壁根に6枚のソーラーパネルがついていた。尋ねたら450Wを発電していて、冷蔵庫やテレビもOK。もう3ヵ月もここにいて言う持ち主は73歳の女性で、プロのピアニストだった。

◇ソルトレーク到着前日に取材に来たのは美人のトリビューン記者。翌日の新聞にトップで掲載された「日本から新鮮なそよ風を運んで来た67歳のサムライ」といった内容の記事を読んだ団長は、相好を崩して疲れが吹っ飛ぶような面持ちだった。(つづく)

事務局だより

今年の総会を“ビーン元年”と位置付けた。それを踏まえて8月9日理事会で新たに副理事長に大久保武氏を迎え、森山、渡辺、大久保の3人で中核を担うことになり、

事務局は事務長に宮川清彦氏を迎え、総務部、企画部、管理部を統轄する新たな体制となった。当法人の発展の糸口としたい。事務局長として5年余にわたり、お世話になった多くの方々に感謝申し上げます。(渡辺昭男)

■ 新事務長挨拶

勤務者の平均年齢は70余歳、まさに日本の縮図のような法人である。ここで皆様と共に汗を流せることの幸せを噛みしめながら、全力でご奉公させていただきたいと決意しております。(宮川清彦)

■ 発行者: 特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク(通称:NPOビーン)

■ 住 所: 〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目1-18 GSハイム芝大門208号

事務局: TEL03-6435-6160 FAX03-6435-6366 <http://bicycle-been.weebly.com>

